

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 07 月 19 日	
所属部局・職	京都大学、霊長類研究所・博士課程
氏名	戸田和弥

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国、ルオー学術保護区、ワンバ村
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ボノボメスの集団間移籍に関する研究
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 02 月 04 日 ~ 平成 30 年 07 月 06 日 (153 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学、Wamba Committee for Bonobo Research (WCBR)、古市剛史教授 Center of Research for Ecology and Forestry (CREF)、Jaque Batuafe Bakaa
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。

**(研究概要)：出自集団から移出する至近的要因の解明**

ボノボの社会では、メスらが生まれた集団を離れ (分散)、他集団へ加入 (移籍) することが知られている。種に特異的な分散・移籍の生活史戦略を明らかにするためには、縦断的に行動や生理状態の変化を調査することが重要となる。本研究では、どのようにメスたちが出自集団からの離脱に至るかを明らかにするため、ボノボの長期調査地であるコンゴ民主共和国のワンバにおいて、コドモメスを対象とした行動観察と性ホルモン分析から、性的・社会的成熟と分散時期との前後関係を調査している。

**トラックーたちとのデイリーミーティング @Cecile**



### (行動観察)：分散前の社会関係の変化

今調査期間に、対象とするコドモメス 1 個体 (Fua) が他集団との出会いを通して出自集団を離れた (8 6 月齢)。分散の前段階において、Fua は母親と異なるパーティー (サブグループ) で遊動していた。この事例を含めて、6 個体のコドモメスの分散が記録されたが、分散前段階において母親とのアソシエーションが減少する傾向がみられる。また移出前には、特定のオトナメスへの近接や親和的交渉の頻度が増加する。これらの行動の変化は、コドモメスたちがより有効な社会的パートナー (あるいはより有用な社会的交渉の手法) を獲得するための、生活史特徴に沿った社会的成熟過程の一部と考えられる。メスの凝集性が高く、メスがオスに対して優位なボノボ社会において、分散するメスは血縁関係のないオトナメスと良好な関係を築くことが重要なのかもしれない。

### (性ホルモン分析)

非侵襲的に採取された尿試料から、エストロゲン (E1C) とプロゲステロン (PdG) 代謝物を測定し、メスたちの性的 (身体的) な変化と分散時期との関連性を調べている。これまでに収集された尿試料で行った実験から、分散前から尿中の E1C 値が平均的に増加し始め、分散後に PdG 値の増加が随時確認された。これらの予備的な結果は、ボノボメスの分散時期は春機発動期と応答している可能性を示唆した。ボノボのメスたちは、性的に活発化する時期に分散することで、出自集団のオスたちとの交配を回避しているのかもしれないし、あるいは、ボノボに特有な性を用いた社会交渉が可能になり、他集団の個体たちと十分な社会関係を築くことができるのかもしれない。

フィルターペーパーを用いた尿の採取 @Cecile



## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### (事例報告)

今調査期間尿試料、観察対象のボノボ集団 (PE) のパーティーメンバーの中で、その集団に隣接する別集団 (PW) に属する成熟オス 1 頭 (Terry) が 2 日間単独で確認された。Terry は、メンバーたちの周辺部で注意深く行動しており、特に PE 集団のオスとの接近を避けているようであった。果実の採食に PE のメス 1 頭に追いかけて逃げ出したものの、PE のオスたちが、彼に攻撃や威嚇を行う様子は一度も観察されなかった。また、パーティの周辺部で PE のメス 2 頭と交尾を行い、そのうちの 1 頭とは 1 時間以上にわたるグルーミングを交わした。以降、Terry は PE では見られず、PW のメンバーとともに遊動していることが確認されている。ごく短期間ではあるが、オスの他集団のパーティーへの単独訪問は、ワンバでは (恐らく) 初めてのまれな観察事例である。|

#### メスからグルーミングを受ける Terry



### (謝辞)

本調査を実施するにあたり、京都大学の Primatology & Wildlife Science リーディング大学院プログラムより多大なサポートを頂きました、スタッフの皆様に厚くお礼申し上げます。ワンバ村の調査アシスタント、お世話になった多くの村人に深く感謝いたします。また、この度ワンバで調査を共にした Cecile Sarabian に大いに助け、励まされました、ありがとうございました。